JET 通信

第 115 号　2026 年 10 月 16 日
発行 ： 学校法人 JET 日本語学校 / JET 日本語学校後援会

7 月の日本語能力試験（JLPT）結果

N1 で 8 人、N2 は 27 人合格

マレーシアの Ha You Qi さん N2 満点合格

N1 校内ベスト 3 （180 点満点）				
	クラス	氏　名	出身	得点
1	A	Kakikawa Mio	タ イ	157
2	A	鄭 宇哲	台 湾	140
3	C	Ryan Lim Yu Xuan	マレーシア	125

N2 校内ベスト 3 （180 点満点）				
	クラス	氏　名	出身	得点
1	A	Ha You Qi	マレーシア	180
2	A	張 秉鋐	台 湾	165
3	A	Cheong Zoey	マレーシア	156

7 月 5 日に 63 か国で実施された 2026 年度第 1 回日本語能力試験（JLPT）の結果が、8 月下旬に発表されました。JET からは、N1 から N3 まで合計 64 人が受験しました。合格者はのべ 42 人で、合格率は 65.6%でした。

非漢字圏から N1 合格多数

N1 では 19 人が受験し 8 人が合格しました。合格率は 42.1%、校内平均点は 99.1 点でした。合格者のうち 4 人は非漢字圏（インドネシア、マレーシア、タイ）出身でした。校内トップの Kakikawa Mio さんは、国際的な言語能力指標である CEFR の C1 レベル（上から 2 番目）と判定されました。

N1 を各分野別に見ると、「言語知識」と「聴解」の分野で Kakikawa Mio さんがそれぞれ 56 点（60 点満点）、「読解」では賴宥齊さん（D クラス・台湾）が 53 点（60 点満点）で、校内 1 位の成績でした。

「初級」を終えて N2 合格

N2 では 34 人中 27 人が合格しました。合格率は 79.4%で、校内平均は 109.8 点でした。Ha You Qi さんが見事満点で合格しました。合格者のうち 8 人は、3 月に初級クラスを終えたばかりでした。

N2 各分野で満点

分野別に得点を見ると、Ha You Qi さんの他では、「読解」で Cheong Zoey さん、「聴解」で張秉鋐さん、Cheong Zoey さん、呉冠如さん（D クラス・台湾）が満点を獲得しました。（各分野とも 60 点満点）

6 月の日本留学試験（EJU）結果

進学クラス平均 271.7 点

台湾の林柏宇さん世界最高点

「日本語」校内ベスト 3 （400 点満点）				
	クラス	氏　名	出身	得点
1	A	林　柏 宇	台　湾	374
2	A	張　秉 鋐	台　湾	357
3	A	Kakikawa Mio	タ イ	352

6 月 21 日に世界 14 の国・地域で実施された 2026 年度第 1 回日本留学試験（EJU）の結果が、7 月下旬に発表されました。国内外の総受験者数は 26,888 人。前年 6 月実施時より約 6.7%増えました。

JET からは 28 人（うち進学クラス 27 人）が試験に挑みました。林柏宇さんが日本語で 400 点満点中 374 点を獲得し、世界最高点をマークしました。JET の学生が世界最高点を記録したのは、2010 年の EJU 開始以来 6 人目（7 回目）となります。

進学クラス（A、B）の平均点は 271.7 点で、全受験者の平均 237.0 点を 34.7 点上回りました。

分野別でも世界最高点

得点状況を分野別に見ると、「読解」（200 点満点）では、林柏宇さんが世界最高の 199 点、Ha You Qi さんが 197 点と続きました。B クラスの高紹芳さん（台湾）は前学期初級クラスでしたが、184 点と健闘しました。

進学クラスの平均は 152.7 点で、全受験者の平均 136.2 点を 16.5 点上回りました。

「聴解・聴読解」（200 点満点）でも林柏宇さんが 175 点で世界最高でした。進学クラス平均は 119.0 点で、全受験者の平均 100.8 点を 18.2 点上回りました。

「記述」では、Ha You Qi さんが満点の 50 点をマークしました。進学クラス平均は 39.6 点でした。全受験者の平均は 33.1 点でした。

歴代の EJU 世界最高点獲得者

試験実施年月	氏　名	出　身	得点
2010 年 11 月	金　允範	韓　国	369
2012 年 6 月	曾　健朗	香　港	372
2012 年 11 月	曾　健朗	香　港	372
2017 年 11 月	陳　禾家	台　湾	371
2019 年 11 月	黄　皓雪	マカオ	370
2024 年 6 月	Lwee Xiao Yu Evelyn	マレーシア	372
2026 年 6 月	林　柏宇	台　湾	374

新入生 51 人迎え 10 月期開始

10 月 2 日、8 つの国・地域から新入生 51 人を迎え、入学式を行いました。30 年前の韓国の卒業生のお嬢さんもいます。

日本語基礎科は 6 クラス、日本語進学科は 2 クラスで 10 月期がスタートしました。国籍の割合は、台湾 44%、インドネシア 21%、タイ 12%、マレーシア 8%、香港 4%、その他 9 つの国・地域が 11%です。

スピーチ大会　最優秀賞は謝昀容さん

7 月 31 日、第 31 回 JET スピーチ大会が行われ、各クラスの予選を勝ち抜いた 14 人が出場しました。どのスピーチも聞きごたえがあり、甲乙つけがたいレベルの高さでした。まさに審査員泣かせでしたが、最優秀賞は台湾の謝昀容さんが勝ち取りました。花火を観て思い出す「母からの恵み」を、表情豊かに、美しい発音で語り、会場を静かな感動に包みました。(3 面に原稿を掲載)

優秀賞はマレーシアの Cheong Zoey さん、アメリカの Tetrault Tyler James さん、インドネシアの Thio Maharani Grimonia さんの 3 人が獲得しました。努力賞にはインドネシアの Habib Rahadian Budiman さんと James Emmanuel Joesoef さんの 2 人が選ばれました。

地域からご来場いただいた方々からは、「皆さんのスピーチに心が洗われました」、「日本語が美しい。私より上手！」といったお言葉をいただきました。

↑山口校長(中央)と、後援会からの賞品を手に入賞を喜ぶ 6 人

≪スピーチ大会の全出場者≫

	演　題	氏名（クラス・出身）	入　賞
1	「私はファイさんになりたいです。」	Sok Sabaye Tony (B・フランス)	
2	「絶対、日本語がうまくなりたい！」	Suwannabot Pichapob (G・タイ)	
3	「あり得ないことはよく起こる」	James Emmanuel Joesoef (A・インドネシア)	<努力賞>
4	「テーマは何にすればよいでしょう」	孫 麗玲 (C・香港)	
5	「立ち止まってもいい」	Ghea Yeanne Nugroho (F・インドネシア)	
6	「日本人の彼氏と付き合って、日本語より難しかったこと」	黄 若維 (E・台湾)	
7	「音楽って素晴らしいもの」	Habib Rahadian Budiman (D・インドネシア)	<努力賞>
8	「今日という日は残りの人生で一番若い」	Lydia Then (E・インドネシア)	
9	「目の前の花火は、誰がくれた？」	謝 昀容 (C・台湾)	<最優秀賞>
10	「日本語を学ぶ目的」	黄 建霖 (G・台湾)	
11	「いちばん好きな言葉」	賴 宥齊 (D・台湾)	
12	「バタフライ・エフェクト」	Tetrault Tyler James (F・アメリカ)	<優秀賞>
13	「私は背が低い」	Thio Maharani Grimonia (B・インドネシア)	<優秀賞>
14	「迷いながら歩く」	Cheong Zoey (A・マレーシア)	<優秀賞>

15 人が修了　就職内定 3 人、大学院 1 人

9 月 18 日、日本語基礎科を 15 人が修了しました。このうち日本での就職内定は 3 人、就活のための特定活動ビザ申請予定は 4 人です。(10 月 16 日現在)

また、孫麗玲さん(香港・C クラス)は、10 月から東京大学大学院工学系研究科の修士課程に進学しました。

何亦敏さんに皆勤賞

台湾の何亦敏さん(D クラス)には 1 年間の皆勤賞として、後援会から図書カードが贈られました。

イベント山盛りサマーコースに 38 人

7 月 1 日から 8 月 15 日まで、7 週間にわたって開講した夏の短期コース(サマーコース)に、台湾や香港、アメリカなど 6 か国から 38 人が参加しました。

新 任 教 師 紹 介

6 月、JET の教師陣に英語担当の岡 みき先生、8 月のサマーコースからは日本語の荒木 勇人先生をお迎えしました。また、10 月からは本田 茜先生も新たに加わっています。

【スピーチ最優秀賞】

目の前の花火は、誰がくれた？

謝　昀容
(台湾・Ｃクラス)

皆さんは、打ち上げ花火を観たことがありますか？それは美しいですか？幸せですか？花火を観ると、人はなぜか心の中に隠れている思いが溢れ出すことが多いです。これから語るのも、わたしが２か月前の「足立の花火」大会で花火を観ていた時に思い出した話です。

花火は、非日常的な、かなりの幸福感や満足感を引き出せる物だと思います。その時私は、たくさん輝いている花火を観たら、ふと私の母のことを思い出しました。なぜなら、母は、目の前の花火のような、心を満たせる、いくつかの貴重な体験を私にくれた、大事な人だからです。

母はずっと前から、私のことにたくさん力を入れていました。中学校から、私は母のサポートで日本語の勉強を始めました。それを知った友達はみんな「え？何で？」と驚いたり羨んだりしていました。それで、母が私に多くの人が得られない機会をくれたと知りました。

それから、高校三年生の時、私はデザインを専攻したいと思って、母も私を支持しました。デザイン学科はかなり費用がかかるのを知りながら、私の好きなことをやらせてくれたのです。それに対して、友達の多くは親に「できるだけ早くお金を稼ぎ始められる学科を選びなさい」と言われて、自分で進路を決められませんでした。私はもう一度、母がくれた恵みを深く感じました。

そして今、日本留学しているのも、母のおかげです。母は、大学を卒業したのにまだ経済的に自立できない私を一言も責めないで、私が好ましい将来を迎えられるように留学をさせてくれました。

こうして、私は母の愛情をずっと感じてきましたが、去年始めて知った母のことが一つあります。実は私の高二の頃、母はある親友にお金を騙し取られてしまったのです。その後約 5 年間にわたって、母はずっとお金に困っている状態でした。もっとも厳しい時期には、生活費を 100 円程度まで切りつめざるをえないこともありました。つまり、私が日本語を勉強していた時も、デザインの勉強にたくさんお金をかけていた時も、留学を考えていた時も、母はその厳しい状態で私をサポートしていたのです。

私は全然知りませんでした。母は一度もその辛い一面を見せないで、家計の状況がようやく良くなってから、私に「今はもう大丈夫、心配しないで」と伝えました。その優しさに言葉を失いました。

「母は私が気楽に望ましい将来へ進められるように、こんなに自分を犠牲してまで私を支えてきたなんて。」

このように、花火を観ながら私はこの母のことを思い浮かべて深く考えさせられました。

私が順調にここまで進んでこられたのは、母が困難を抱え込んでくれたからだ。今ここで花火に感動して心がいっぱい満たされるのも、母からの恵みなのだ。

一見直接関わってなさそうだけれど、私が母のサポートで今まで生活を送っていなかったら、日本に留学に来ていなかったら、今、目の前の花火をこんなに幸せに楽しむことはできなかっただろう。つまり、この眩しい花火も母の恵みだ。花火がもたらした幸せも、母のおかげだ。

無数の花火の下で今わかった。何かを楽しんでいる時、または花火のような非凡な幸せを不自由なく味わっている時、きっとその裏では誰かが支えてくれているのではないか。「ありがたい」「頑張って報います」といった気持ちは絶対忘れたくない。

では皆さん、誰かたくさん恵みをくれた人が思い浮かびましたか？たいてい家族でしょうか？それが誰でも、その人をずっとありがたいと覚えていてほしいです。

最後に、日本の夏の定番、花火大会。皆知っていますよね？では、知っていますか？歴史を約 300 年前の江戸時代まで遡ると、花火大会は最初、「疫病退散」つまり「健康で平安な生活を送る」ために行われたのです。人々が花火を神様に一番近い所に打ち上げて、目の前の美しさを楽しみながら、そこに願いを乗せて、愛する人の健康や幸せを祈っていたのです。だから次回、花火を観ている時、自分の幸せな気持ちだけを感じるのではなく、支えてくれている家族、たくさん恵みをくれている人のこともぜひ思い浮かべて、心から彼らの健康や幸せを祈ってください。

何かを楽しんでいる時、目の前の物事に幸せを感じている時、ぜひその裏で支えてくれている人を忘れないで、彼らの心も満たそうとすることを、ずっと心にとどめておきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

日台の近代美術の展覧会に招待

東京都現代美術館で開催中(12 月 13 日まで)の「共時的星叢 － 時を共にした星たち 越境する芸術のまなざし」に、同窓会台湾支部会長の呉杰さん(2011 卒)が、JET の後輩たちを招待したいと、約 80 人分のチケット代を後援会に寄附してくださいました。呉さんは、この展覧会の日本開催実現に一役買ったとのことです。

展覧会には、1930 年代以降、日台の美術家たちが交流し、ともに紡ぎあげてきた膨大な作品や資料が展示されています。金美齢名誉理事長のおじで、著名な画家の顔水龍氏(1903-1997)の自画像も見ることができます。

呉さん、ありがとうございました!!

学校日誌

○4 月 16 日･17 日　進学クラスで EJU チャレンジ模試

○4 月 17 日　よむよむ会(多読の会)スタート

○4 月 25 日　せいえん寄席　滝野川八幡神社で行われた落語と講談の会に、ボランティアスタッフとして 5 人参加

○4 月 27 日　早稲田大学国際学生友好会(WIC)による**日本教室「ご飯会」**イベントに 7 人参加

○4 月 27 日　第 1 回就職セミナー(ガイダンス)

○4 月 27 日　進学座談会

集まってくれた先輩は、Cheah Jing Le さん(マレーシア・茨城大 2 年)、Theresa Gracelynn Tedjaseputeri さん(インドネシア・東洋大 1 年)、崔埈榮さん(韓国・東洋大 4 年)、Hein Ye Set さん(ミャンマー・ものつくり大 4 年)、Jones Casey Allen さん(アメリカ・東京工芸大 1 年)、Yimtae Pataratorn さん(タイ・東京工科大学院 1 年)、劉宸均さん(台湾・東京学芸大学院 1 年)の 7 人。後輩たちに熱いエールを送りました。

○5 月 8 日　春の遠足

葛西臨海公園で、バーベキューとクラス対抗ゲームで親睦を深めました。

○5 月 18 日　第 2 回就職セミナー

○5 月 21 日　JLPT チャレンジ模試

○5 月 23 日　ヒッポファミリークラブによる週末 1 泊**ホームステイ**に 15 人参加

○5 月 25 日　第 3 回就職セミナー

○5 月 30 日　東洋大学と交流会　赤羽台キャンパスに出かけ、健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科の大学生と、30 人がスポーツやゲームを通して交流しました。

○6 月 1 日　健康診断

○6 月 9 日～11 日　小石川中学校の生徒が JET で職場体験

○6 月 14 日　WIC 主催の**ショートトリップ**に 3 人が参加。大学生たちと、お台場のジョイポリスと未来館、サンシャイン水族館などを巡りました。

○6 月 15 日　日本事情「みそ汁を作ろう！」

○6 月 17 日　歌舞伎鑑賞教室(サンパール荒川)　9 人が『仮名手本忠臣蔵』を鑑賞

○6 月 24 日　能楽鑑賞教室(国立能楽堂)　9 人が能『葵上』と狂言『仏師』を鑑賞

○6 月 29 日　就職セミナー「企業経営者との意見交換会」を東京商工会議所北支部の協力で開催。日本での就職を希望する 15 人が参加

○7 月 4 日　K-link(北区日本語教室)のボランティアの方々と**交流会**　9 人参加

○7 月 6 日　大学院研究計画発表会

○7 月 6 日　輪島塗金箔はり体験　垣内幸彦先生を招いて、14 人が参加

○7 月 7 日　漢字進級テスト　4 級の李欣穎さん(香港)と謝昀容さん(台湾)、5 級の Nathan Reinhart Harfest Liauw さん(インドネシア)、6 級の柏木美沙さん(マレーシア)の 4 人が満点合格し、それぞれ飛び級に。

○7 月 8 日　歌舞伎鑑賞教室(大田区民ホール)　19 人が『神霊矢口渡』を鑑賞

〇7 月 8 日 卒業生の陳(鈴木)紫瑩さんの指導で、**浴衣着付け教室**

〇7 月 10 日 避難訓練
〇7 月 11 日 国際交流大学連絡協議会(SNIE)主催のイベント**「東京オリエン」**に 17 人参加
〇7 月 11 日 K-link との**交流会**に 5 人参加
〇7 月 14 日 防災訓練(1)
〇7 月 15 日 防災訓練(2)
〇7 月 16 日 江戸東京博物館見学 11 人参加
〇7 月 17 日 国立科学博物館見学 18 人参加
〇7 月 18 日、19 日、20 日、21 日 プロ野球観戦 東京ドームでの 4 試合を越野理事長が招待。8 人参加
〇7 月 20 日 王子ロータリークラブによるロータリー奨学生(日本人)とインドネシア留学生の**交流会** 5 人参加
〇7 月 22 日 早稲田大学 WIC との**交流会** 大学生 5 人を迎え JET から 13 人が参加
〇7 月 23 日 得猪先生指導の**茶道体験**に 20 人が参加
〇7 月 24 日 専門学校体験授業(東京製菓学校) 24 人が同校を訪れ、**ロールケーキづくり**に挑戦
〇7 月 26 日 高田馬場管絃楽団コンサート(練馬文化センター大ホール)を 27 人が鑑賞。Latifa Dani Wicaksaya さん(インドネシア)がチェロで初出演

〇7 月 27 日 専門学校体験授業(専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー)に 10 人が参加。**ミュージックビデオを制作**
〇7 月 28 日 専門学校体験授業(ESP エンターテイメント東京)に 17 人が参加。**作曲に挑戦**
〇7 月 30 日 防災訓練(3)
〇7 月 31 日 第 31 回 JET 日本語学校スピーチ大会
〇8 月 4 日 SNIE によるイベント**「納涼船」**
〇8 月 13 日 SNIE の大学生 18 人を迎え**交流会**
〇8 月 14 日 防災訓練(4)
〇8 月 19 日 SNIE によるイベント**「世界のお菓子パーティー」**に 1 人が参加
〇8 月 20 日～23 日 JAPAN TENT(日本各地で学ぶ留学生を石川県に招いて開催する国際交流イベント)に 2 人参加
〇8 月 27 日 日本事情「大人の社会科見学」で、法務省司法法制部から講師を招き、**模擬裁判の出前授業**
〇9 月 11 日 F クラスの校外学習で**東京国立博物館見学**
〇9 月 12 日 K-link との**交流会**。5 人参加
〇9 月 16 日 文楽鑑賞教室(江東区文化センター)に 10 人参加
〇9 月 18 日 日本語基礎科修了式
〇9 月 26 日 北区花火会 5 人がボランティア通訳として活躍
〇10 月 1 日 クラス分けテスト
〇10 月 2 日 入学式、オリエンテーション、新入生歓迎パーティー

入学式で新入生歓迎挨拶をした先輩たち

〇10 月 3 日 SNIE 主催の吉祥寺での**バーベキュー**に 3 人参加
〇10 月 9 日 秋の遠足
埼玉秩父の芦ヶ久保でハイキング。晴天に恵まれ、ぶどう狩りを楽しみました。

〇10 月 8 日～12 日 第 40 回湯河原ホームステイ文化交流(ゆがわら国際交流協会主催)に 9 日から 2 人参加
〇10 月 13 日～23 日 学習院大学から**教育実習生** 2 人受入れ

希望をくれた場所、夢を教えてくれた場所

陳　静怡　（台湾・2003.3 卒）

2001 年、私は留学生として日本へやって来ました。当時、若かった私は、自分の未来について明確な考えや計画を持っていたわけではありません。むしろ、人生に対する迷いや戸惑いを抱えていました。日本への留学を決めたのも、何か明確な目標があったからというより、先の見えない現実から少し逃げて、未知の世界へ行ってみたいという気持ちが大きかったように思います。そして、JET 日本語学校を選んだのは、金美齢先生の名前に惹かれたことがきっかけでした。

実際に JET で学び始めてみると、通学の便利さだけではなく、素晴らしい先生方に恵まれていることを実感しました。先生方は一人ひとりの学習状況を丁寧に見てくださり、それぞれの将来を考えながら、進学や進路について親身になって指導してくださいました。

私自身も、担任の先生からのアドバイスを受けながら、自分がこれから何を学び、どのような道へ進みたいのかを少しずつ考えるようになりました。それまで霧の中を歩いているようだった私の前に、一筋の光が差し込んだような感覚でした。

JET 日本語学校で一年半学んだ結果、日本語能力試験一級に合格し、立教大学大学院の経営学修士課程（MBA）にも進学することができました。大学院一年目には私費留学生向けの奨学金をいただき、二年目には論文に対する奨学金と公益財団法人インナートリップ国際交流協会の年間奨学金にも支えていただき、無事に学業を終えることができました。また、大学院二年目には日本通運総合研究所で研究員助手として働く機会にも恵まれました。

大学院を修了した年、私はさらに新しい挑戦を求めてアメリカへ渡りました。女性として自分自身の力で事業を築いてみたい。そんな思いを胸に、ニューヨークで新しい人生を始めました。

そして、そこで仕事だけではなく、生涯の伴侶にも出会いました。ニューヨークでの 20 年間の中で、結婚し、自分自身の事業を立ち上げ、人生のさまざまな経験を積んできました。

今、振り返ってみると、私が現在持っているものの多くは、すべて日本から始まっていたのだと気づきます。

そして、その原点にあるのが JET 日本語学校です。

JET は、私に日本語を教えてくれただけではありません。未来が見えず、何をすればよいのか分からなかった私に、「自分にも何かできるかもしれない」という希望を与えてくれました。そして、夢を持つことを教えてくれました。

あれから 20 年以上の時が流れました。

今、私は再び日本に戻り、この土地で第二の人生を始めています。

人生には、先が見えない時期があります。何を選べばよいのか分からず、迷いながら歩くこともあります。でも、そんな時に出会った人や場所が、思いがけず人生の方向を照らしてくれることがあります。

私にとって、その光を与えてくれた場所が JET 日本語学校であり、そこで出会った先生方でした。

20 年の時を経て、私はもう一度、この場所に戻ってきました。

かつて私が与えてもらった「希望」を、今度は、少しでも誰かに渡せる人になれたらと思っています。

ご主人(右)は今年 JET のサマーコースで勉強しました。

日本の小説を翻訳出版

Triktima Leadkitlax さん(タイ・2006 卒)が、秋吉理香子の長編サスペンス・ミステリー小説『聖母』をタイ語に翻訳しました。

JET にも寄贈していただきました。

写真は、バンコクで開かれたブックフェアで。

山手線一周の旅

葉　奕晨(台湾・Ｇクラス)

今年の夏休みは、一人で山手線を歩いて一周しました。チャレンジしたいと思ったからです。

始めの駅は池袋駅です。その日の天気は晴れ時々曇りで、途中であまり有名ではない景色をたくさん見ました。それは違う日本でした。朝早い池袋駅は人がとても少なかったです。田端駅を過ぎてから、道に沿って長い下り坂になりました。その道の右側は、公園の中に緑の葉がたくさんあって、左側に新幹線の線路と遠くにスカイツリーが見えました。この自然の景色と建物の景色が、私の心の中で綺麗にマッチしました。

上野駅では大きな公園を見ました。公園に近い駅の改札口は本当に綺麗でした。公園方面改札口のデザインが隣の公園に、完璧に融合すると思いました。人工と自然が一体になりました。

東京駅は日本の少し古い時代に建てられたので、その時代の日本を見ることができます。高輪ゲートウェイ駅は現代日本のデザインですから、現在の美学がその駅に見られます。新橋駅は日本で一番古い駅だそうです。今の駅は、昔のとは違います。でもその駅は、昔から今までそこで生活する人たちをずっと見てきました。

原宿駅は私の東京の印象そのものです。明治神宮にお参りする人たちはこの駅で降ります。原宿駅を中心に、明治神宮の森の静かな雰囲気と原宿の賑やかな文化がはっきりと分かれていて、とても面白いです。駅の西口を出て最初に目に入った景色は、明治神宮の鳥居でした。鳥居の両側に、緑の葉がたくさんある大きな木が並んでいます。とても壮観でドキドキしました。

途中、大変なことが発生しました。電波が届かなくて、スマホの地図を使うことができませんでした。谷中霊園では迷子になってしまいました。しかしそこで初めて日本式の霊園を見ることができました。そこにいると、昔の人が今の人たちの生活を静かに見守ってくれているような、そんな温かい雰囲気を感じました。

新宿駅はとても大きいので、駅の中で迷子になってしまいました。歩く体力がなくなりました。そこで少し休憩しながら街のストリートミュージシャンの歌を聞きました。沈む夕日を見ながら、家族と一緒に過ごしたときのことを思い出しました。今は私だけがそこに一人で残っている。とても寂しかったです。

目白駅に到着しました。私はスタンプを全部集めました。この 30 個の駅スタンプは、一歩一歩歩いた私だけの記憶につながりました。その時、心が暖かくなりました。

池袋駅に帰る道で、今日見たことや聞いたことをずっと思い出していました。朝の静かな池袋から出発して、夜にまた池袋へ戻ってきた時、朝と夜の街の様子や人の多さが全く違っていました。まるで山手線という環状線が、時間とともに東京のさまざまな表情を乗せてぐるぐると回っているように感じました。

山手線は 100 年間、時計のように毎日同じ線路を回り続けてきました。しかし、時が流れても、駅の利用客とこの場所で生活する人たちが共に作った思い出や記憶は、この場所に残り続けます。

山手線一周の長さは 34.5 キロです。長いような短いような旅程を終えました。自分で歩いて今の時代の日本を見ることができました。この経験は一生忘れないでしょう。

今回の経験は、私に様々な日本を見せてくれました。賑やかな観光地だけではなく、そこに生きる人たちの日常を感じることができました。

東京女子大での 5 日間

陳　俊豪(台湾・Ｆクラス)

私は今年の 7 月に日本へ来ました。8 月の夏休み、東京女子大学でのイベントに参加しました。

この 5 日間は毎日楽しかったです。第一日は予想した通り、自己紹介がありました。自己紹介でいつもと違ったのは、まず二人でペアになって、互いに質問したことです。それから皆を相手に紹介しました。情報が一番多かった人には特別な賞品がありました。その賞品はスタンプでした。自分の名刺を作ったとき、好きなスタンプを使いました。

第二日の最初は皆で「なんでもバスケット」をして遊びました。簡単なゲームで私たちの距離が近くなりました。それからかるたの歴史を紹介してもらいました。最初のかるたはひとつの貝を二つに分けて、その中に絵を描いて作りました。遊ぶときはいろいろな貝を裏返しに置いて二つを選んで、絵が揃ったら一つになり、そして一ポイントもらえました。今のかるたはいろいろな種類があります。私たちは簡単なかるたで遊びました。規則は簡単ですが、取るのが一番難しかったです。そして難しいかるたは百人一首です。百人一首は昔の日本の有名な歌人百人から、それぞれ一首ずつ歌を選んで作ったかるたです。私は『ちはやふる』というアニメを見たことがあるので、競技かるたはだいたいわかります。とても難しいけれど、おもしろそうです。

第三日は皆で江戸東京博物館に行きました。以前ここに来たことがある友達は、私を案内してくれました。日本橋や、明暦の大火や、江戸時代のかるたなど、たくさん見ました。どれもおもしろかったです。最後の一時間は自分ひとりで見ました。いろいろな近代の日本を見ました。時間があればもう一度行きたいと思います。

第四日はまずラジオ体操をしました。アニメでラジオ体操を見たことはありますが、実際にするのは今回が初めてでした。とても面白かったです。それから自分のかるたを作り始めました。時間が足りないのでペアと片仮名を選んで、二人で一つのかるたを作りました。予め決められた片仮名から始まる文をかいて、文は簡単なものでいいのですが、五七五でもっと作りたいと思いました。だから私は文を考え始めました。いっぱい文を考えました。その中で一番好きなのは、「時計は 時間を刻み 未来を待つ」です。

第五日はミニゲームもあります。今回は映像を見ながら踊りました。難しいけど、楽しかったです。それからかるたを作り続けました。文を書きました。別のカードに絵を描きました。文を読む時、その絵が描いてあるカードを取るゲームです。皆がかるたを作った後で試合がありました。自分のかるたを使って試合をしました。私は一位になりませんでしたが、とても楽しかったです。最後に、大学生が作った卒業証書をもらいました。一緒に写真を撮りました。このイベントが終わりました。

東京女子大学で一生忘れられない思い出ができました。日本人とたくさん話す機会が少ないので、今回はもっと話さなければなりませんでした。そして、私はできました。これからも日本人ともっと話して、特別な思い出を作りたいです。

今しかない学生生活を、日本で。

Goh Xinyi Joey（マレーシア・2026.9 卒）

入学式で、山口校長先生は「勉強以外の日本も楽しんでください」とおっしゃいました。確かに、学生でいられる時間は「今しかない」と思い、その言葉を意識して、2025 年 10 月に JET に入学してから、できるだけたくさんの活動に参加してきました。

JET の課外活動では、初めて日本の歌舞伎を体験しました。やさしい日本語や字幕がついていてもすべてを理解することはできませんでしたが、役柄について丁寧に説明していただき、日本の伝統文化がより身近に感じられました。そのほかにも、金箔のワークショップでは能登半島のことや地域の金箔について学び、煎茶の体験では、お茶の淹れ方やいただく際の作法を教えていただき、日本のお茶文化に触れることができました。実際に見たり、触れたり、体験したりすることで、教科書で学ぶだけでは分からない日本の文化の奥深さを感じることができました。このような活動を通して、日本の暮らしに少し近づけたような気がします。

美術館めぐりも楽しみの一つです。埼玉県立近代美術館で、『小田代ヶ原の貴婦人』という絵画作品の作者の方にお会いし、作品が生まれたきっかけを直接聞くことができました。そのお話を聞いて、一人ひとりの女性が持つ美しさや優雅さについて考えさせられました。また、書道や押し花の体験を通して地域の方々とも交流することができ、そのときに作った作品を JET の展覧会に出展することもできました。

特に心に残っている思い出は、JAPAN TENT です。金沢に集まった 43 か国・地域の留学生と、石川県で 4 日間を過ごしました。私は小松でホームステイをし、九谷焼を体験したり、お母さんの畑でキュウリやスイカを収穫したりしました。みんなでごはんを作ったり、テレビを見たりする何気ない時間は、教科書には載っていない日本の日常でした。その温かさに触れ、マレーシアの家族を思い出しました。国や言葉が違っても、一緒に食事をしたり、何気ない会話を楽しんだりすることで、家族のような温かいつながりが生まれるのだと感じました。

日本語が一番伸びたと感じるのは、やはりカフェのアルバイトです。週 2 回ほど働き、「いらっしゃいませ」と言うだけでなく、お客様のさまざまなリクエストにも応えなければなりません。最初は聞き取れなかったり、うまく返事ができなかったりすることもありましたが、少しずつお客様との会話を楽しめるようになりました。聴解の試験と違って、「もう一回お願いします」と聞き返すこともできます。間違いを恐れる気持ちがありましたが、実際に日本語で人と話すことの大切さを学び、それが自信につながりました。

入学式で校長先生がおっしゃった「勉強以外の日本も楽しんでください」という言葉。その言葉の通り、勉強だけでは得られない、たくさんの経験をすることができました。この 1 年間で出会った人々、体験したこと、そして一つひとつの思い出は、これからもずっと私の大切な宝物になると思います。

3 月、校内で開催された「大展覧会」に出品した書と押し花

≪編集後記≫

○高木啓副理事長が 9 月 18 日、経済産業副大臣に就任した。産業界は深刻な労働力不足が続いているが、留学生のアルバイトに頼る構造から脱却し、適切な日本語教育が担保されたかたちで、外国人労働力の受入れを推進していただきたい。そして国は、「真の留学生」獲得に取り組んでいただきたい。

○2027 年 4 月から認定日本語教育機関としてスタートできるよう文科省に申請し、現在審査結果待ちだ。「日本語教育の参照枠」に準拠したカリキュラムの中でも、JET はこれまで通り、教師一人ひとりの個性を生かしながら、伸び伸びと教育活動を展開してゆきたい。

○20 年、30 年も前の卒業生たちとの絆を、改めて実感した。日本での起業を計画している陳静怡さん(台湾・2003 卒)は、帯同するご主人の日本語学習の場として、JET を選んでくれた。韓国で高級味噌の会社を経営する鄭然太さん(韓国・1996 卒)も、愛娘がこの 10 月 JET に入学した。教育は信頼関係なしでは成り立たないものだが、卒業後もこれほど長く続くとは。うれしい賜物である。学生たちにとっても、これから JET の将来を担う先生方にとっても、この学び舎が、生涯にわたる豊かな人間関係を築く場であり続けてほしい。(井上)